平成26年5月
公安調査庁

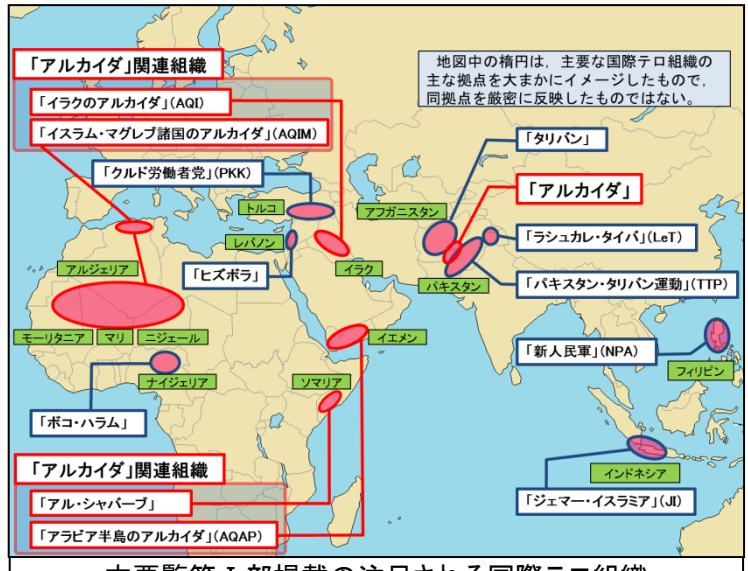
「国際テロリズム要覧2014」の要点

1 国際テロ情勢

○ 中東・アフリカからアジアにかけての地域を中心に世界各地でテロが発生。欧米においても「ホームグロウン・テロリスト」の脅威が懸念

- 在アルジェリア邦人に対するテロ事件（1月）
- ボストンマラソン爆弾テロ事件（4月）
- ナイロビ・ショッピングモール襲撃テロ事件（9月）

○ 今後も世界各地でテロの発生が懸念。我が国でも，その脅威を踏まえ，引き続き警戒する必要



本要覧第Ⅰ部掲載の注目される国際テロ組織

2 「アルカイダ」,「アルカイダ」関連組織などの動向

○ 「アルカイダ」は，幹部の死亡・拘束などの打撃を被るも，アイマン・アル・ザワヒリの指導の下，「アルカイダ」関連組織などに対し声明を発出，プロパガンダ活動を継続し，影響力保持を企図

○ 「アルカイダ」関連組織の「イスラム・マグレブ諸国のアルカイダ」，「アラビア半島のアルカイダ」，「イラクのアルカイダ」，「アル・シャバーブ」などは，中東・アフリカなどで活動範囲を広げ，活発にテロを実行

○ インターネットを利用し，「グローバル・ジハード」思想を広め，「ホームグロウン・テロリスト」となり得る若者を感化。こうした中，単独又は少人数でテロを計画・実行する一匹狼型のテロの脅威が継続

3 我が国をめぐる国際テロの脅威

○ 在アルジェリア邦人に対するテロ事件など，海外における大規模テロ事件において，邦人が被害に遭うケースが発生

○ 過去に「アルカイダ」がテロの対象として我が国を名指し

○ 国際テロ組織関係者が過去に入出国を繰り返し